

学校経営及び教育方針

[1] 経営理念

- ・「学校の主役は、子どもたちと教職員である」と考える。教職員が、情熱と使命感、及び子どもへの思いを持つことに加え、自身の生活の充実、自身の輝きが子どもたちを輝かせる。子どもたち・教職員が毎日明るく元気いっぱい、今日もいい一日だったと振り返られるような日々を過ごせる学校づくりを推進していきたい。
- ・学校は、未来ある子どもたちがその将来のための自立へ向け「たくましく生き抜く」社会性を育む場所である。その社会性の根幹には「確かな学力」「思いやりをもった豊かな心」「心身ともに健康な体力や最後までやりぬく忍耐力」が必要である。学校において、その社会性実現のためには、児童が主体的に活動し、自ら正しく判断し、行動できるようにすることが求められる。
- ・学校は地域・保護者に対して開かれていなければならない。学校運営協議会等の機会を通して、地域のニーズに合った課題を地域や保護者とより共有し、共に協力して児童を育てることにより、教育効果が高まると考える。したがって、学校運営協議会、学校だより、校長だより、ホームページ等により、学校の課題や方針・取組を発信し、地域・保護者と一体となった教育を推進する必要がある。また、SDGs やジオパークの取り組みを推進するとともに地域に根ざした学校を目指したい。
- ・学校内においては、授業実践、学級経営の実践や情報の共有化を図り、教職員間の協働意識を高め、学校内にとどまらず広く社会に目を向けた広い視野を持てるように社会情勢等の情報を提供しながら、一人一人の教職員の指導力向上を図っていききたい。
また、以下の教育目標に対して中長期経営目標を立て、それらを見据えながら短期経営目標実現をめざし、計画的な実践をもとに実現していく。その際、計画・実践・評価・改善といったPDCAサイクルを取り入れ、人事評価制度を有効に活用し、目標の共有と役割の明確化を行い、一人一人の教職員の能力を最大限に発揮させ、組織的な取組により、本校教育水準の一層の向上を図っていく。併せて、年間の中では、本校独自の2ヶ月単位の運営を意図的計画的に行いR-PDCAサイクルにより、児童の状況や段階に応じた取組の計画・実践・検証・改善を児童と共有しながら行い、1年間単位で目指す児童の姿や育みたい資質・能力の実現を学校評価と連動させながら図っていく。

[2] 学校教育目標

未来を生き抜く人間の育成

～進んで考え、協働して課題を解決する子の育成～

[3] 教育方針

- 1 毎日の授業が学校教育の要であることを意識し、授業を通して目指す児童を育てる。
- 2 各校務分掌で社会性に繋がる目指す児童像・目指す力を焦点化し、重点的に取り組む。
- 3 全教職員で指導を揃え、力を合わせて目指す児童の育成に取り組む

[4] 目指す学校像

- 1 一人ひとりの心が大切にされ、豊かな情操が育まれる学校
- 2 学び合い、かかわり合いながら確かな学力が身につく学校
- 3 子ども、教師、保護者・地域が互いに信頼し、成長できる学校

[5] 目指す児童像（社会性を育む）

- 1 「考える子」 考え伝え、進んで学び合う子（「思考力・判断力・表現力」を育む）
- 2 「やさしい子」 規律正しく、思いやりのある子（「思いやりのある温かい心」を育む）
- 3 「たくましい子」 健康・安全な子（「やり抜く力・粘り強さ」を育む）

[6] 目指す教師像（感性を磨く）

- 常に新しいことにチャレンジし、自ら成長し続ける教職員
- ・教職員が互いに協力し合いながら、生き生きと仕事をする
 - ・前向きに学ぶ
 - ・児童の実態に合わせて、願いや思いを大切にする
 - ・児童の話聞き寄り添う
 - ・保護者や地域の思いを大切にする
 - ・変化に気づき行動する
 - ・人間力を高める（趣味・挑戦・経験）
 - ・場をあたためる

[7] カリキュラムマネジメントの柱 … 「伝え合う力」

- 1 学習面（学習・研修部）
 - ・確かな学力を身に付けた児童を育成する。「**思考力**」「**課題発見解決力**」
 - 「**伝え合う力（表現力・コミュニケーション能力）**」「**協働力**」
- 2 生徒指導面（生徒指導部）＋道徳科（道徳教育推進教師）
 - ・友達や自分の良いところを認め合える児童を育成する。「**思いやりのある温かい心**」
 - ・正しく判断し、行動できる児童を育成する。「**判断力**」
- 3 特別活動面（特別活動・体育部）
 - ・話し合って決めたことを、力を合わせてやりきる児童を育成する。「**協働力**」「**省察力**」
- 4 保健体育面（特別活動・体育部）
 - ・粘り強くやりきる児童を育成する。「**粘り強さ・最後までやりきる力・忍耐力**」

※学校運営協議会により、学校と地域との双方向の連携協力を強化する。